

コツコツか工夫か

学校で出される宿題には、実は2種類あります。

- (1) 基礎・基本をコツコツと反復練習するもの
- (2) 身の回りの現象などから発見、工夫するもの



それぞれが、ねらいとしていることが違ってきます。子どもによって得意な傾向が違います。コツコツ型は、ドリルや漢字練習などが好きです。工夫型は、自主学習が好きです。それぞれのお子さんが特徴を持っています。

それに対して、どのように親が接していけばいいのでしょうか。

どちらの型についても言えることは、「意欲を持って学習に取り組む」ことです。

これがなければ、「やらされる学習」となって、せっかく時間をかけても定着しません。つまり、家庭学習は「時間」という尺度では測れないのです。(ただし、習慣形成という面から見れば必要です。)

そうなってくると、難しいのはコツコツ型です。工夫型は、既に自分で面白さを見つけているので意欲は高いのですが、コツコツ型はなかなかおもしろみが見つかりません。そこで、意欲的に学ばせるためには、仕組みが必要となるのです。

たとえば、

- 時間を制限する。「○○時まで、ここまで終わらせようね。」
- 短い期間での目標を設定する「来週の漢字テストでは100点をとろうね。」
- 競争する「○○ちゃんに負けないようにね。」
- 目に見える「○つけをして間違ったところだけ練習しようね」

こうした手法は、実は学習塾がよく使う手段です。勉強のつらさを少しでも少なくするために目先を変えるのです。子どもたちを「怒ったり」「励ましたり」「笑わせたり」「競わせたり」するのが学習塾の一つの重要な役割です。学習を定着させていくには、モチベーションを高め、「感情」と結びつけることが必要です。

家庭では、その役目を家の人が行うしかありません。宿題のさせ方も工夫してみてください。